

能越自動車道中波2号跨道橋詳細修正設計他

CIM先導モデルを検証

北陸地方整備局は、国土交通省が取り組むCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）の先導モデルとなっている「能越自動車道中波2号跨道橋詳細修正設計他業務」の効果に関する検証結果をまとめた。それによると、業務委託者は関係者間の協議、後工程への円滑な移行などに関して有効であるとの認識を示し、着実に成果を上げていることが分かった。2013年度には工事に着手する予定だが、施工者にも3次元設計などに対する理解が求められ、発注時にその

取り合い不整合を防止 関係者との合意に活用

整備局 着実に成果

部分をどう反映していくかが今後の課題となりそうだ。同案件での試行目的は、▽跨道橋と周辺地形情報の3次元モデルの作成、数量算出▽う回路、工事用道路計画範囲（3次元施工ステップ図の作成）——としている。

業務委託者の意見では、「施工時に発生しやすい各種取り合いの不整合を未然に防止する上で極めて有効。関係者との合意形成にも活用できる」「鉄筋とPC鋼材、鉄筋と支保アンカーなどとの干渉を瞬時に確認できる」「工事ステップを3次元とすること

で、工事の進め方が可視化し、より理解できる」と肯定的なものが多かった。

一方、課題として、「データ入力のコスト、動作のストレスなどに対応するため、データの分割化、整理方法の統一化を詰める必要がある」「積算区分の手間は掛かるが、数量算出はかなりの精度で瞬時に可能」としたほか、普及とオペレーターの教育などを挙げている。

同業務は、PC方杖ラーメン橋2橋と工事用道路設計1300坪、仮橋設計4橋。委託先はパシフィックコンサルタンツ。このうち、CIM対象は、PC方杖ラーメン橋1橋（長さ73m）となる。

先導モデルでは、本体構造物のほか、付属施設（壁高欄

など）についても3次元モデルで作成し、設計する。材料の寸法や数量などの属性情報やそれらの価格情報も可能な範囲で活用する。

施工段階では3次元設計に施工データを追加した上で、施工レベルの3次元モデルを構築する。

同業務にかかる工事の発注時期や工期などの詳細は未定としている。



【建設ICT】		
1. 日経	2. 朝日	3. 毎日
4. 読売	5. 朝日	4. 日経
7. 産経	8. 朝日	5. 毎日
10. 中部経	11. 朝日	6. 日経
⑬ 建設通信	12. 朝日	7. 毎日
16. 建設工	13. 朝日	8. 日経
	14. 朝日	9. 毎日
	15. 朝日	10. 日経